

2・3世紀の列島東部 - 千葉市戸張作遺跡の整理から見えて来た事

「千葉県の古墳時代の開始について」

菊池健一

1、極東の島国（図版 ）

参：東アジア民族史 1 正史東夷伝、井上秀雄他訳注東洋文庫、平凡社 1974 発行東夷伝
東夷伝校正：朝鮮伝（史記）・扶余伝（後漢書・三国志・晋書）・肅慎（しゅくしん）等十
国（後漢書・三国志・晋書）・東扶桑・濊伝（後漢書・三国志）高句麗伝（後漢書・三国志・
晋書・魏書等）・韓・馬韓・百濟伝（後漢書・三国志・晋書・魏書等）・辰韓・弁辰・加羅・
新羅伝（三国志・晋書等）、倭人伝（後漢書・三国志・晋書・等）、地理誌・音楽史

肅慎中の一節「邑落にはそれぞれ大人がいる。（人々は）山林の間に居住している。気
候は極めて寒く、いつも穴居生活している。その穴は深いほど好いとされる。大家は
9（段の）梯子ほどの深さがある。」

2、千葉市戸張作遺跡（遺跡の分析：図版 ）

Q：東寺山石神遺跡：1977 と戸張作遺跡：1998・1999 での弥生時代後期の状況、北関東系
主体から古墳時代前期への変化の違いの実態

A：弥生時代中期から後期：千葉市史原始・古代（1974）段階

中期前半：須和田・小田原式段階＝新田山遺跡・中野台遺跡・星久喜遺跡・大森第 2 遺跡
4

中期後半：押元遺跡・峠台遺跡 2

後期（久が原式→長岡式・前野町式）：上ノ台遺跡・宮脇遺跡・車坂遺跡・弁天台遺跡・大
久保遺跡・城の腰遺跡・椎名谷遺跡 7

北関東系主体とする弥生時代後期の東寺山地区：東寺山石神遺跡（1977）、戸張作遺跡
（1998・1999）、東田遺跡等が知られ遺構数も 2 件～ 4 件単位

戸張作遺跡：弥生時代中期（環濠内竪穴住居跡 2 2 件、方形周溝墓 1 基）、弥生時代後期竪
穴住居跡 1 4 件

古墳時代前期 6 5 件

千葉市域では弥生時代の集落数・住居跡は限られた場所に小規模に展開

古墳時代に入ると遺跡数。遺構数増える集落の構成原理が変わる

3、古墳時代集落の形成（図版 ）

Q：養老川に面する国分寺台・ちはら台の南関東系から中台遺蹟への転換を経て古墳時代
前期への移行状況を東寺山地区（千葉市若葉区）と比較することで、隣接地域で別々に起
こっている人の動きを相対化し着目してみる

可耕地の違い：戸張作遺跡の面する東寺山地区（千葉市若葉区）：都川・近年まで湧水の為

に、深田で悩まされる

養老川流域：河川流域が利根川水系の次に広く、現在に至るまで氾濫に悩まされて来た

3、 土師器の成立

弥生式土器の器種構成は貯蔵具である壺・煮沸具である甕・食物を盛るための高坏よりなり、小地域単位で、文様や、土器の製作上、成形・整形・調整の工程に違いが認められる。

土師器は「延喜式」に見える「土師器（はじのうつわもの）」に当てて用いられる、赤褐色の素焼き土器。弥生式土器との識別は古墳時代祭祀と関連する埴等の小型丸底土器・器台等が器種構成の中に現れ、壺等本来飾られる土器の文様が失われた段階つまり、斉一性を持つ土器を土師器とされてきた。

弥生式土器と土師器の線引きであるが、通常、古墳出現以降のものを土師器とする。

どの時点をもって古墳成立時とみるか研究者によって、意見の食い違いが見られる。

参：小林行雄 1935 小型丸底土器小考「地域地域の様式として相互に関連しつつも文化して行った弥生式土器の発展が地域を超えた一つの統一体に帰着」

原因には広域な地域間交流の密接化による一体化、集団内での土器製作者の分業転換などが考えられる。

ある時期から弥生式土器の中に、他地域に系譜を持つ土器が組み込まれるようになり、地域内に同化してゆく。

4、 千葉県古墳時代の開始

現在、千葉県では、印旛沼西岸（香取の海西岸）の戸張一番割遺跡、呼塚遺跡を中心とした地域、養老川流域一市原市国分寺台・草刈遺跡の両遺跡群を中心とする地域、君津郡市域では高部古墳群を中心に打越遺跡群、請西遺跡等、小櫃川流域を中心とする地域に核があるように見える。

国分寺台遺跡群については大村直氏（特別展大交流時代—平成 26 年・安城市歴史博物館）が、外来系土器は、時期及び遺跡・地点単位で様相が異なる。終末期を前半・後半に分ける前半＝中台 1 式期～2－1 式期

・ B 谷周辺（南中台、独立棟持ち柱掘立柱建物が認められる中台遺跡）北陸系南西部系土器

長平台遺跡 東海西部系土器

後半＝中台 2 式期

・ A 谷周辺

蛇谷遺跡 畿内第 V 様式系叩き甕が目立つが、共伴する S 字甕から三河周辺を直接の故地と考える。

との見解を出している。

千葉県内の移行期の代表的な墳墓

(前方後方墳) 木更津市高部 32・30 号古墳・瀧ノ口向台 8 号墳・佐倉市飯合作 2 号墳

(前方後円墳) 神門古墳群 3・4・5 号墳

太平洋岸の茂原市域では国府関遺跡：北陸系北東部系土器を主体とする一群が認められる。

参考文献：最近の県内の動向

- 1、加藤修二：2000 年・千葉県文化財センター研究紀要 2 1 (財) 千葉県文化財センター
- 2、大村直：2016 年・邪馬台国時代の市原・市原市埋蔵文化財センター
- 3、菊池健一：2019 年・戸張一番割遺跡・柏市史 (原始・古代・中世)
- 4、比田井克仁：2002 年・関東・東北地方太平洋沖地震南部の土器考古資料大観 2
- 5、小沢洋：2000 年「房総の出現期古墳」大塚初重頌寿記念論文集
- 6、岡安雅彦：2013 年「大交流時代 - 鹿乗川流域の古墳時代前夜の土器移動」安城市歴史博物館

自説：時の流れは同じでも地域によって開村等の原因に格差がある

太平洋 - 東京湾分水界

土気一銚子分水界